

平成29年度 事業報告書

(自 平成29年 4月 1日)

(至 平成30年 3月31日)

公益財団法人 内藤科学技術振興財団

当財団は、平成24年4月1日付で公益財団法人へ移行し、研究助成金交付事業を通じ、愛知県内における科学技術の振興と地域産業の発展に寄与することを目的として活動して参りました。

平成29年度の助成事業は、保有株式の一定の配当金収入を期待することが出来、助成対象を12機関23件とし、助成金を1件あたり100万円と致しました。

【 平成29年度助成事業概要 】

- (1) 助成件数及び金額 : 全23件、2,300万円 (100万円/件)
- (2) 助成交付式 : 平成29年 6月12日
- (3) 助成対象 : 別紙による

平成29年度 研究助成一覧

順不同

公益財団法人 内藤科学技術振興財団

No.	所属 ・ 氏名	研究課題
1	名古屋工業大学 大学院工学研究科 生命・応用化学専攻 助教 石井陽祐	燃料電池空気極のメタルフリー化に向けた 機能性分子内包カーボンナノチューブの開発
2	国立学校法人 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 石山 武	シリコンナノワイヤテンプレートを用いた パラジウムナノワイヤ成長機構の研究
3	国立学校法人 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教 岩田達哉	植物工場応用を目指した集積化半導体CO2センサにおける アクティブ温度制御による湿度不感応性の付与
4	国立学校法人 豊橋技術科学大学 情報・知能工学系 助教 大石修士	レーザーフレクタンスを利用したカメラ映像による 自己位置同定
5	独立行政法人 国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 一般学科 准教授 加藤貴英	脳科学に基づいた加齢に伴う転倒リスク増加の 対抗措置の構築
6	中部大学 超伝導・持続可能エネルギー研究センター 助教 神田昌枝	航空機用へ応用した超伝導直流送電技術のための材料開発
7	名古屋工業大学 工学研究科 電気・機械工学専攻 准教授 岸 直希	配向カーボンナノチューブ薄膜のフレキシブル・ 透明なフィルム状熱電変換発電材料への応用
8	名古屋大学 大学院工学研究科 助教 ジメネス フェリックス	教育支援ロボットの外観に適した協調学習を行う 行動モデルの開発
9	名古屋大学 大学院工学研究科 助教 鈴木陽香	大規模表面処理のための長尺大気圧マイクロ波 プラズマ装置開発
10	名古屋工業大学 大学院工学研究科 生命・応用化学専攻 助教 吉井達之	小分子応答性蛋白活性制御システムの開発と 細胞内シグナル伝達操作
11	愛知工業大学 工学部 応用化学科 教授 手嶋紀雄	生活環境水の改善に資する自動モニタリング装置の開発
12	国立学校法人 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教 東城友都	環状分子を用いた単層カーボンナノチューブの 新規物理化学合成手法の開発
13	名古屋大学 大学院工学研究科 講師 新津葵一	微細CMOS適応・低消費電力バイオセンシング 集積回路技術を用いた電力自立ヘルスケアIoTの構築
14	あいち産業科学技術総合センター 食品工業技術センター 分析加工技術室 主任研究員 日渡美世	日本人の嗜好に適したライ麦パン用 乳酸菌スターターの開発
15	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 構造材料研究部門 研究員 胡 致維	有機複合材料を用いた新規水素貯蔵材料

平成29年度 研究助成一覧

順不同

公益財団法人 内藤科学技術振興財団

No.	所属 ・ 氏名	研究課題
16	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室 主任研究員 福田聡史	マイクロレーザーサイジングを応用した 木質建材の防火・難燃化処理
17	あいち産業科学技術総合センター 尾張繊維技術センター 素材開発室 主任研究員 福田ゆか	重症心不全患者に対する心臓サポートネット 実用化のためのネット物性評価法の確立と 着圧シミュレーション
18	名古屋工業大学 生命・応用化学専攻 助教 淵上輝顕	界面活性剤アシスト水熱法による新規誘電体 セラミックナノ粒子の合成と電子材料への応用
19	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 構造材料研究部門 研究員 古嶋亮一	セラミックスと金属間化合物の複合化による 次世代硬質材料の開発
20	名古屋市工業研究所 プロジェクト推進室 主任研究員 宮田康史	ナノカーボンの電気化学デバイスへの応用
21	独立行政法人 国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 建築学科 准教授 山本貴正	コンクリートを補強する鉄筋の コルゲートチューブ被覆による腐食抑制
22	名古屋市工業研究所 システム技術部 製品技術研究室 研究員 吉村圭二郎	傾斜多孔質複合材を用いた高感度触覚センサ材料の開発
23	公益財団法人 名古屋産業科学研究所 (中部ハイテクセンター)	当財団の公益事業活動を効率良く一般公開する手段 として、ホームページの活用があるが、以前からア クセスが非常に少なく、あらゆる事業の低迷・・・

監査報告書

私ども監事は、公益財団法人 内藤科学技術振興財団の平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の監査を実施する為、理事会その他の重要な会議に出席する他、随時理事から事業に関する報告を聞き、重要な書類を閲覧するなど適宜必要と認める方法により監査した結果を次のとおり報告します。

1. 事業報告書の内容は真実であると認めます。
2. 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録、正味財産予算・実績対比などの内容は正しくかつ適法であると認めます。
3. 理事の業務執行の状況及び財産の状況について、不正の事実は認められません。

平成30年4月26日

監事 高岡 次郎



監事 瀬瀬 泰生

